

◆ 『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.1 (2012年5月号) ◆

今月より購読会員の方々限定で月刊のニュースレターをお送りすることに致しました。年一回発行の『Intelligence』ではカバーしきれない、鮮度のある情報をお送りし、研究の推進・活性化に寄与するためです。最初は試行として、20世紀メディア研究会の概要、気になる新著や記事の紹介、編集者のコラムを掲載しますが、会員のご要望によりましては、他にも内容を拡充したいと思います。皆様からのご意見をお寄せいただければ幸いです。

【4月研究会の概要：第67回】（4月28日午後2時半～5時）司会：小林聡明

・牧義之「国立国会図書館所蔵の検閲原本・関係資料等について—特500資料群を中心に」
牧さんは「永井荷風の検閲意識」「森田草平『輪廻』伏字表記考」など戦前期の文学作品の検閲に関する論文を発表されていますが、今報告では、戦前戦中期に検閲のために内務省に納本され、後に帝国図書館へ移管され、発売頒布禁止処分になった刊行物「特500」資料群について、新出資料の紹介とともにその最新の調査結果を話して下さいました。

・佐藤香里「GHQ/SCAPの文化政策—CIE美術記念物課を中心に」

佐藤さんは占領期の民間情報教育局（CIE）の中で社会教育の枠組みから美術展や文化財の保護に取り組んだ美術記念物課（Art & Monuments Division）の活動の一端を、ロバーツ委員会や関係した日本美術史家を中心に話して下さいました。

・菊池敏夫「1920年代上海のメディアと百貨店—『申報』『本埠増刊』をめぐって」

上海史研究会のメンバーで『民国期上海の百貨店と都市文化』を上梓されたばかりの菊池さんは、1920年代に上海で発行されていた日刊紙『申報』の増刊ページ「本埠増刊」の百貨店に関する記事に注目し、「百貨店＝マスメディア複合体」形成を論じられました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

（閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。）

●次の5月の研究会は、5月26日（土曜日）午後2時半から5時までの予定で、島田顕、嶋村藤吉、山本武利の三氏にご報告頂く予定です。6月は23日（土曜日）、7月は28日（土曜日）、8月は夏休みで、9月は29日（土曜日）に研究会開催の予定です。また、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所までご一報下さい。m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】 [敬称略]

先月刊行の佐藤卓己『天下無敵のメディア人間』（新潮選書）は、野依秀市という右翼ともリベラルともつかない「負け組」メディアの人物伝。戦前戦中の大衆メディアを考えるに興味深い論考。インテリジェンス関係では、秦郁彦『陰謀史観』（新潮新書）が刊行された。また、加藤哲郎が発掘した小野寺武官関係の文書に基づく記事が『産経新聞』に掲載された。<http://sankei.jp.msn.com/world/news/120511/erp12051107310000-n2.htm> プロパンガンダ関係では、米浜泰英『ソ連はなぜ八月九日に参戦したか—満州をめぐる外交戦』（オーラルヒストリー刊）が刊行された。検閲関係では、編集委員の川崎賢子が、鈴木登美他

編『検閲・メディア・文学--江戸から戦後まで』（新曜社）に、「かいくぐることと自粛とー昭和モダニズム文学者・久生十蘭の検閲対応」を寄稿した。編集委員の小林聡明は『毎日新聞』5月14日付夕刊に「東アジアから見た沖縄返還」を寄稿した。また、吉田則昭『緒方竹虎とCIA』（平凡社新書）が近刊予定。

【今月のコラムー最近の展覧会】

昭和館の特別企画展「昭和の紙芝居」は、すでに終わっているが、見逃した方は図録（1200円）だけでも入手されることをお勧めする。紙芝居の源流から、街頭紙芝居、印刷紙芝居、レコート紙芝居、占領期の検閲に至る説明と写真など豊富な資料がカラーで盛り込まれていて価値がある。また、兵庫県播磨町郷土資料館「新聞の父ジョセフ・ヒコ」展が開催中。
http://www.town.harima.lg.jp/profile/profile_shisetsu/profile_shisetsu_shiryokan.html 6月24日まで。また、報道写真家で日本工房の中心人物だった名取洋之助の没後五十年を記念した特別展が日比谷図書文化館で6月26日まで開催中。〔5月15日付文責：土屋〕